

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	高解像度MRI検査所見を加味した下部直腸癌治療戦略の有用性と問題点			
2. 対象患者	下部直腸癌と診断され、下記期間中に当科で手術治療を受けた患者さん			
3. 対象となる期間	2014年1月1日 ~ 2019年7月31日			
4. 実施診療科等	消化器外科			
5. 研究責任者	氏名	三浦 卓也	所属	消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし			
7. 研究の意義	下部直腸は排泄生活に直接かかわる尿路および肛門が近接する部位です。そこに発症する直腸癌の正確な進展範囲を評価し尿路または肛門温存術を行えるかどうか、または術前治療が必要かどうかを判断するためには、直腸診、CT検査を行う必要がありますが、それらだけでは過剰診断、過小診断が存在します。そこでより正確な評価目的に欧米で有用とされている高解像度MRI検査を導入してきましたが、本邦における有用性と問題点は十分明らかではありません。			
8. 研究の目的	2014年1月から2019年7月の期間に、下部直腸癌の診断で治療目的に受診した患者さんを対象とし、対象患者さんの診療録より、臨床所見、手術所見、術後所見などを検討し、高解像度MRI検査を行うことの有用性と問題点を明らかにすることです。			
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合はの方法等)	診療録、血液画像検査を利用し、現病歴、既往歴、年齢、性別、身長、体重などの臨床所見、CTおよびMRI画像所見、術式、合併症などの手術関連情報を利用し、統計学的手法を用いて関連性を見出すことで、有用性と問題点を明らかにします。			
10. 個人情報の保護	患者さん個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。拒否の申し出があった場合は、研究対象から除外し、データを削除致します。ただし、既に匿名化のうえ解析済みの場合や、研究結果公表済みの場合は、データを修正することは出来ませんのでご了承願います。			
11. 利益相反に関する状況	本課題の研究代表者が所属する講座では大鵬薬品工業(株)、中外製薬(株)、アステラス製薬(株)、小野薬品工業(株)、(株)ヤクルト本社、エーザイ(株)、MSD(株)、日本イーライリリー(株)、第一三共(株)から寄附金を受領しており、利益相反状態にありますが、これらは本課題の資金源ではなく、研究は講座の研究グループによって公正に実施されます。			
12. 連絡先	弘前大学医学部附属病院 消化器外科, 乳腺外科, 甲状腺外科 三浦 卓也			
	電話	0172-39-5079	FAX	0172-39-5080